

米子市文化財保護審議会（令和元年度 第1回）

日 時 令和元年8月30日（火）13：00～

ところ 米子市役所第2庁舎3階会議室

日 程

1 開 会

2 挨拶（文化振興課長）

3 議 事

（1）会長・副会長の選出について

（2）令和元年度前半期文化財保護事業実施状況について（報告）

（3）米子市文化財の新規指定候補について

（4）現地視察

（5）その他

4 その他

5 閉 会

令和元年度後半期文化財保護事業 実施状況

(令和2年2月18日現在)

①埋蔵文化財関係 (P 4 参照)

ア 市内遺跡発掘調査事業

開発に伴う遺跡の有無、範囲、性格などを確認する試掘調査を6ヶ所実施

イ 石井要害発掘調査事業

鳥取県及び米子市による急傾斜地崩壊防止工事に伴う事前の発掘調査。
16世紀半ば頃の城跡。法勝寺や出雲方面への道筋にあたり、西伯耆の防衛拠点。
現在、発掘調査実施中。

ウ 青木宮塔遺跡発掘調査事業

平成30年7月の豪雨により発生した土砂災害の保護工事に伴う発掘調査。
古墳時代と思われる住居跡などを検出した。8月前半に調査終了。

②史跡整備関係

ア 史跡青木遺跡整備事業・・・5号地の法面崩落防止工事。7月末に着工し、現在工事中。青木1号地等の道路に面する危険木の伐採予定

イ 史跡米子城跡保存整備事業

(ア) 整備検討委員会 整備基本計画に基づき、今後の米子城跡整備について検討する。
令和元年度第2回を2月7日に開催。

(イ) 危険木の伐採 遺構の保護及び来訪者、近隣施設の安心安全確保のために危険木の伐採を実施予定。

(ウ) 発掘調査 内容確認調査として水手御門跡～水手御門下郭の間にある石垣の発掘調査を実施中。今年度中に内堀の確認調査、整備事業に伴う園路の確認調査を実施予定。

③名勝・天然記念物関係

・オオサンショウウオ 放流件数2件(内マイクロチップ挿入1件)別紙参照
(個体1:体長80cm体重3,500g、個体2:体長53cm、体重1,000g)

④無形民俗文化財関係

ア 日吉神社神幸神事(ヨイトマカセ) 5月3日開催 約200名参加

イ 第53回米子盆踊大会の開催 8月14日開催 公会堂前広場 参加者約700名

⑤無形文化財関係

ア 弓浜緋・・・保存会が保護事業(資料収集、体験講座など)に着手

イ 淀江傘製造技術・・・後継者育成に着手(県、市の助成金事業、研修生1名育成中)

⑥建造物関係

ア 国指定重要文化財後藤家住宅

自動車衝突による毀損(H29.9.28、主屋北隅柱、東面庇の北隅柱の折損、大壁が傾く)に対する復旧工事が完了。

⑦その他

ア 活用事業実施状況

- (ア) 史跡上淀廃寺跡 . . . 彼岸花まつり
- (イ) 史跡妻木晩田遺跡 . . . GWはむきばんだ日和、古代と自然の探検隊、なり
きり弥生人生活
- (ウ) 史跡米子城跡 . . . 米子城・魅せるプロジェクト (城下町ウォーク、天守之
大掃除、ライトアップ春の陣・夏の陣、魅せる写真展)

令和元年度前半期市内遺跡発掘調査事業 調査結果一覧

(令和元年8月30日現在)

| | 調査遺跡名 | 調査地 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 | 検出遺構 | 出土遺物 |
|---|-----------|--------------|-------------|---------|--------------|----------|
| 1 | 勝田町所在遺跡 | 米子市勝田町 | 31.5 | 宅地造成 | 近世の道、 井戸等 | 陶磁器等 |
| 2 | 尾高御建山所在遺跡 | 米子市尾高 | 21 | 大型倉庫建設 | なし | なし |
| 3 | 尾高所在遺跡 | 米子市尾高 | 48.5 | 残土処分場造成 | なし | なし |
| 4 | 淀江町福頼所在遺跡 | 米子市淀江町 福頼 | 3 | 太陽光発電関係 | なし | なし |
| 5 | 博労町遺跡 | 米子市博労町 | 27 | 校舎建築 | 畑 | 土師器、須恵器等 |
| 6 | 青木所在遺跡 | 米子市青木 | 12 | 介護施設建築 | なし | 土師器 |
| 7 | 米子城跡 | 米子市久米町 | 調査中 | 遺構確認調査 | 調査中 | 瓦など |

令和元年度前半期史跡名勝天然記念物現状変更許可状況一覧

(平成31年4月～令和元年8月)

| | 種別 | 名称 | 地区・地域 | 許可申請者 | 現状変更の概要 | 許可年月日 | 許可権者 |
|---|-----|-----------------|--------------|----------------------------|---------------------------|----------|----------|
| 1 | 国史跡 | 妻木晩田遺跡 | 米子市淀江町 福岡 | 綾木 邦夫 | イノシシ捕獲用 檻設置 | H31.4.8 | 米子市教育委員会 |
| 2 | 国史跡 | 青木遺跡 | 米子市永江 | 米子市長 伊木 隆司 | 法面補強工事 | H31.4.19 | 文化庁長官 |
| 3 | 国史跡 | 青木遺跡 | 米子市永江 | 米子市選挙管理 委員会委員長 入澤 睦美 | 参議院選挙に係 るポスター掲示 板 | R1.5.28 | 米子市教育委員会 |
| 4 | 国史跡 | 向山古墳群 | 米子市淀江町 福岡 | 米子市選挙管理 委員会委員長 入澤 睦美 | 参議院選挙に係 るポスター掲示 板 | R1.5.28 | 米子市教育委員会 |
| 5 | 国史跡 | 鳥取藩台場跡 淀江台場跡 | 米子市淀江町 今津 | 米子市選挙管理 委員会委員長 入澤 睦美 | 参議院選挙に係 るポスター掲示 板 | R1.5.28 | 米子市教育委員会 |
| 6 | 国史跡 | 米子城跡 | 米子市久米町 | 米子市長 伊木 隆司 | 発掘調査 | R1.6.12 | 文化庁長官 |
| 7 | 国史跡 | 鳥取藩台場跡 淀江台場跡 | 米子市淀江町 今津 | 今津お台場祭り 実行委員会 実行委員長 | 祭り開催に係 る、舞台、テン トの設置 | R1.7.22 | 米子市教育委員会 |

(2) 平成30年度(下半期)文化財保護事業 実施計画

①埋蔵文化財関係

- ・市内遺跡発掘調査事業

開発に伴う遺跡の有無、範囲、性格などを確認する試掘調査を3件予定

②史跡整備関係

- ア 史跡青木遺跡整備事業

5号地の法面崩落防止工事中。平成31年1月31日終了予定

- イ 史跡米子城跡保存整備事業

(ア) 整備検討委員会 保存活用計画に基づき、今後の米子城跡整備の方向性を示す整備基本計画の策定に着手。6月に第2回を開催。年度末までに策定。

(イ) 危険木の伐採 伐採終了。残務整理中

(ウ) 発掘調査 内容確認調査として豎堀～番所跡の発掘調査を実施中

(エ) 雪害対策事業 12月工事着手予定

- ウ 史跡鳥取藩台場跡淀江台場跡・・・松くい虫防除薬剤注入予定

③名勝・天然記念物関係

- ・オオサンショウウオの保護・・・河川改修に伴う事前踏査、放流など

④無形民俗文化財関係

- ・弓浜半島及び近隣地域のトンド

現在14地区43集落を対象に指定を働きかけている。

⑤無形文化財

- ・弓浜絃の保存事業(古い絃の収集、保存、絃製作体験講座の実施等)
- ・淀江傘製造技術の伝承・・・後継者育成

⑥建造物

- ・重要文化財後藤家住宅の復旧工事(自動車衝突による毀損)

⑦その他

- ・活用事業実施計画

史跡米子城跡・・・米子城・魅せるプロジェクト2018

(米子城フェスタ、米子城シンポジウム、天守之大掃除、

米子城ライトアップ2018秋の陣、魅せる写真コンテスト、新年明けまして米子城！)

(3) 史跡米子城跡における文化財毀損（落書き）について

- ・確認日時 平成30年10月26日（金） 午後4時ごろ
- ・毀損箇所 本丸天守北側2箇所
- ・内容 石垣最上端部の石に、「HAO」「CAMB」「☆」などが書き込まれていた。
- ・対応 文化庁に毀損届提出済み。米子警察署に通報し、現場検証終了。落書き禁止の周知看板設置。
- ・備考 文化財保護法第196条違反

(4) 指定文化財及び登録文化財の候補について

ア 史跡上淀廃寺跡出土壁画及び塑像の国重要文化財指定について

イ 公会堂の国登録文化財意見具申について

ウ 市指定候補案件について

(ア) 掩体壕

(イ) 貴布祢神社の狛犬

(ウ) 宗形神社奉納桃形兜

(エ) 車尾の道標

(オ) D51蒸気機関車

(カ) 勝田土手（新土手）、宗像土手

(キ) セントロマントロ

(ク) ハマナス等弓ヶ浜半島の砂丘植物

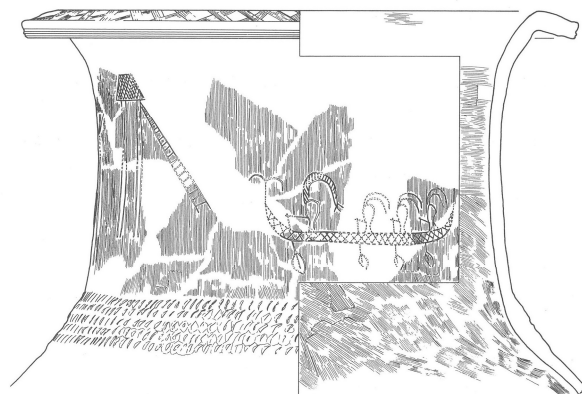
①稲吉角田遺跡出土の絵画土器(県指定保護文化財)

淀江平野の南東部、稲吉地区の水田にある弥生時代中期の稲吉角田遺跡から、十数点の弥生土器がみつかりました。復元してみると高さ約 150 cm（残存高 33cm）、口の直径約 50cm の大型の壺形土器になり、この壺のクビに絵が描かれていました。

描かれていたものは、六重の同心円（太陽？）、鳥の羽をつけて舟をこぐ人物、2棟の建物、木にぶらさげられた物体、動物などで、壺のクビを一周するように描かれています。全国では、かなりの絵画土器が見つっていますが、この稲吉角田遺跡でみつかった土器ほど多種多様なものが描かれたものにはあまりありません。

舟は、ゴンドラのようなもので奈良県唐古遺跡出土の絵画土器に類似しています。鳥の羽を頭につけた3人以上が手にパドルのような櫂をもって舟を漕いでいます。建物は、高床のものが一棟あり長い梯子がみられ、かなり高層の建物です。もう一棟は、草ふきの屋根を表現したものです。建物の隣に木が描かれ、枝に2つ紡錘形（紡錘）のものがぶら下げられています。これは、銅鐸ではないかと考えられています。動物は、鹿のようですがはっきりしません。

これらの絵は、春の豊作の祈り、秋の収穫への感謝など「まつり」に関係した一連のものか、あるいは湖沼が広がる淀江平野の情景を描いたものと考えられます。しかし、この描かれた絵のモデルとなった人々、舟、建物などが、弥生時代の淀江町には確実に存在したことがわかり、弥生時代の生活や社会を復元できる貴重な資料です。（『米子の文化財(改訂)』より）



写真・実測図 稲吉角田遺跡の絵画土器

②井出挾3号墳出土埴輪一括(県指定保護文化財)

井出挾3号墳は、淀江町富繁にある直径26.6mの円墳で、今から約1,600年前の古墳時代中期に築かれました。古墳からは円筒形の埴輪の他に、家や人物、鹿、水鳥などの動物を模した多くの埴輪が出土しました。中でも盾持人埴輪と呼ばれる盾を持つ武人を模した埴輪は、4体が見つっています。高さが81～94cmあり、前面に持った大きな盾には幾何学的な文様が表現されています。このうちの2体は頭に冠をかぶり、顔には入れ墨が彫られています。彼らの顔は、力強く、何物をも近づけないような威圧感があります。(『米子の文化財(改訂)』より)



写真 盾持人埴輪

③上淀麿寺跡出土壁画・塑像(県指定保護文化財)

上淀麿寺跡は、淀江平野の東側、日本海を望む大山山麓にある古代寺院跡です。平成3年(1991年)の発掘調査によって、彩色壁画の破片が発見され、一躍全国的に注目を集めることとなりました。

発掘調査では土師器・須恵器などの土器類、瓦、鉄釘・青銅製飾金具などの金属製品が出土していますが、特に注目されるのは、金堂と塔周辺から多量に

発見された壁画と塑像です。

発掘された約6,000点の壁画、壁土のうち約1/4に彩色が認められ、分析等により赤・黄・緑・青・白・黒の6系統、8～12種類の色を持つ顔料が使用されたと推定されています。いずれも小片のため、壁画の全体像は明らかではありませんが、「神将」、「菩薩」、「天衣」などのモチーフが認められます。塑像の破片も多量に発見されています。金堂内には、本尊の如来坐像を中心に、両脇に菩薩立像が安置されていたと考えられ、そのほかにも四天王や八部衆とみられる断片も見つかっています。

大量に出土した瓦の中から「癸未年」の文字を刻んだものが発見されました。この「癸未年」は、天武天皇12年(683)の可能性が高く、上淀廃寺の創建年代を知る手掛かりとなります。また、創建時の瓦と推定される単弁12弁蓮華文軒丸瓦は、「上淀廃寺式」と呼ばれる独特の文様を持ち、『出雲国風土記』に書かれている「教昊寺」と推定される島根県安来市の野方廃寺の瓦などとも共通する地方色の強い瓦です。また、寺域の南西隅から発見された土器(須恵器坏)には「寺」の文字が刻まれています。

上淀廃寺跡は、地方の有力氏族によって造営された白鳳時代の寺院の具体的な様子を知ることのできる貴重な遺跡であり、出土した多量の壁画・塑像は、地方における仏教文化の定着を示すもの、また、当時の堂内荘厳を復元しうるものとして高く評価されます。

なお、上淀白鳳の丘展示館では、金堂内に安置された仏像とともに堂内の荘厳が復元されています。(『米子の文化財(改訂)』より)



写真 神将の壁画

④石馬(国指定重要文化財)

大山から産出される角閃石安山岩の一石から馬全体をけずりだして作られた石製の馬です。現存で、体長約150cm、高さ約90cmを測ります。

天神垣神社のご神体として、古くから祀られてきました。出土地ははっきりとしませんが、6世紀中頃の築造と推定される石馬谷古墳（前方後円墳、全長約61m）に立てられていたといわれています。

石馬の前脚は、失われ、胴体と後脚は補修接合されていますが、鞍、手綱、鐙などの馬具が装着された状態を細かく写實的に表現しています。また、たてがみ、面長な顔など馬の特徴がよくとらえられています。一部に赤色顔料が残っており、過去には、馬全体が赤色にぬられていた可能性が指摘されています。なお、この石馬と同じ石材を使用してつくられた石人の下半身と考えられる石製品もあります。

石馬は、岩戸山古墳をはじめとして九州北部に数例ありますが、本州では、この石馬が唯一のものです。石馬が樹立されていたと考えられている石馬谷古墳が古墳時代後期中～後半（6世紀中～後半）に築造されていることから、この石馬も同時期のものと推定されています。

古墳時代後期における九州との交流の一端をうかがい知ることのできる貴重な資料です。（『米子の文化財(改訂)』より）



写真 石馬展示状況

⑤観音寺・木造十一面観音座像(県指定保護文化財)

等身大の木像十一面観音坐像で、室町時代初期の立派な仏像です。この像がもともと安置されていた観音寺は、車尾の豪族深田氏によって応永22年(1415)創建と伝えられ、この頃に製作されたと考えられています。

檜材の寄木造りで漆箔仕上げの高さ106cmの像で、顔つきは端麗厳格で洗練された堂々たる像です。

化仏や光背、左手、台座などは修理で当初のものから後補のものに変えられています。台座の裏に「内け仏十二 花まき口共に かず五本 惣数覚え」の墨書があります。

現在この仏像が安置されている慈眼庵は、天正年間(1573~1592)、尾高城主の杉原盛重により観音寺が尾高に移された旧寺跡地に立てられたと伝えられています。(『米子の文化財(改訂)』より)



写真 慈眼庵の十一面観音像